

「実践英語研究」授業報告

高橋 歩・金山 亮太

A Report on "Practical English Course"

Ayumi TAKAHASHI and Ryota KANAYAMA

This paper reports on progress and results of a newly offered class, "Practical English Course." The course was opened as an exploratory TOEIC preparation class for students of Faculty of Humanities with its purpose of raising students' TOEIC scores. Several teaching procedures aiming to serve this purpose were introduced. Three TOEIC model tests were administered in order to measure students' English proficiency at different stages of the course. The average score on the reading section of the test rose somewhat for the period of three months, whereas the average score on the listening section went up remarkably.

Key words: TOEIC, proficiency tests, reading skills, listening skills

1 はじめに

公的英語試験の成績が大学の単位として正式に認定されることになったのに伴い、人文学部では3・4年次学生を対象として「実践英語研究」を平成12年度より第I期に開講した。

2 授業の趣旨

本授業の趣旨は、TOEIC公開テストのスコアを伸ばす訓練を行うことである。

3 TOEICについて

TOEICとは Test of English for International Communication (国際英語コミュニケーション能力テスト)の略称である。知識としての英語力を問う大学入試や「実用英語検定試験」とは異なり、社会における実践的な英語のコミュニケーション能力を診断するためのテストである。世界50カ国で英語能力のグローバルスタンダードとして採用されており、日本国内でも現在までに累計490万人が受験してきた。テスト開発公共機関として世界最大の規模とノウハウをもつアメリカのETS (Educational Testing Service)で開発されており、テスト結果は10点～990点のスコアで示される。

TOEICは分野を問わず、様々なレベルの受験者の英語力を正確に位置づけることができ、この優れた特長から、日本国内の一般企業や官公庁で、英語能力基準の設定、新入社員研修や英語研修計画作成など様々な形で利用されている。

4 授業計画

TOEIC公開テストは、パート1からパート4のリスニング・セクション(100問)及びパート5からパート7のリーディング・セクション(100問)の合計200問から成る。本授業では、1回の授業で1つのパートを取り上げ、そのパートに的を絞って訓練を行った。授業回数の都合上、リスニング・セクションの各パートに1回、リーディング・セクションの各パートに2回の時間を割り当てた。

実際の授業は、次のスケジュールに基づいて行われた。

- 第1回 オリエンテーション：TOEIC試験についての基礎知識
- 第2回 現状診断テスト(第1回TOEIC模擬テスト)

- 第3回 リスニング：パート1 写真描写問題
印刷された写真を見ながら、それについて4つの英文を聞き、適切なものを選ぶ問題
- 第4回 リーディング：パート5 文法・語彙問題 (1)
問題文の空欄に入れるべき語句を4つの選択肢から選び、未完成の文を完成させる問題
- 第5回 リーディング：パート5 文法・語彙問題 (2)
問題文の空欄に入れるべき語句を4つの選択肢から選び、未完成の文を完成させる問題
- 第6回 リスニング：パート2 応答問題
質問とその答えの3つの英文を聞き、適切な答えを選ぶ問題
- 第7回 リーディング：パート6 誤文訂正問題 (1)
問題文に示された4つの箇所から、訂正すべき部分を選ぶ問題
- 第8回 中間達成度確認テスト (第2回 TOEIC 模擬テスト)
- 第9回 リーディング：パート6 誤文訂正問題 (2)
問題文に示された4つの箇所から、訂正すべき部分を選ぶ問題
- 第10回 リスニング：パート3 会話問題
会話を聞き、質問に対する適切な答えを、4つの選択肢から選ぶ問題
- 第11回 リーディング：パート7 読解問題 (1)
英文を読み、質問に対する適切な答えを、4つの選択肢から選ぶ問題
- 第12回 リーディング：パート7 読解問題 (2)
英文を読み、質問に対する適切な答えを、4つの選択肢から選ぶ問題
- 第13回 リスニング：パート4 説明文問題
説明文を聞き、質問に対する適切な答えを、4つの選択肢から選ぶ問題

第14回 最終達成度確認テスト (第3回 TOEIC 模擬テスト)

5 授業の実際

5.1 クラス設定

当初、20名程度の規模のクラスを開設する予定であった。しかし、それを遥かに越える数の学生が受講を希望したので、選抜を行うことにした。英語を主たる専攻としない学生を優先的に受け付けることをシラバスで既に明記してあったので、先ず、英米文化履修コース所属学生を受講希望者から外した。次いで、残った学生67名の中から抽選によって41名に受講を許可した。結果として、予定していた倍の規模のクラスを設定することになった。受講を許可された学生はいずれも3年次学生であった。

以上のような経緯から、英語を主たる関心事としない学生の中でも、公的英語検定試験に強い関心を抱き、その対策に特化した授業の受講を希望する者が少なくないことが、確認された。

5.2 オリエンテーション

TOEICについての知識や受験経験のない学生も多いと考えられたので、第1回目の授業時にオリエンテーションを行い、TOEICの特色、問題のタイプと構成、スコアと英語能力レベル、一般企業や官公庁におけるTOEICの役割などの基礎知識について説明した。また、学習意欲高揚のため、学習の仕方によっては短期間でスコアアップが可能であることや、授業担当者の受験体験などを話した。

5.3 教材

使用したテキストは The Complete Guide to TOEIC (Bruce Rogers 著、International Thomson Asia ELT, 1997) である。このテキストにはテープ3本が付随している。学生には、授業の進度に関わらず、テキストのリスニング及びリーディング・パートを独習によって進めていくことも望ましいと指導した。従って、意欲のある学生は、授業中に学習する簡

所をすでに終えていることも十分に予測された。そこで、各回の授業は、テキストだけではなく、練習問題用の補助プリント数枚、TOEIC 練習用のテープ数本及び CD 数枚を併用して進められた。

5.4 語彙リストと単語テスト

語彙力を強化するため、TOEIC 頻出単語約 80~90 語から成るリストを毎週配布し、翌週までに覚えてくるよう指示した。翌週の授業開始時に単語テストを行い、前週配布した単語リストの中から 10 問を出題した。この単語テストを模擬テスト実施週以外、毎週欠かさず行った。最終講義が終了するまでに配布された単語数は 950 語以上になった。受講学生全員の全 10 回の単語テストの平均点は、10 点満点中 6.4 点であった。

5.5 リスニング・セクション

TOEIC のリスニング・セクションは 4 つのパートで構成され、各パートで問題のタイプ及び形式が異なる。従って、各パートの問題が放送される際に最初に読み上げられる英語の指示文及びサンプル問題を含む、問題形式に慣れなければいけないことを強調し、先ず、そのための訓練を行った。この指示文及びサンプル問題は、各パートで毎回同じものが読み上げられる。このことを話した後、指示文とサンプル問題をテープで数回聞き、内容を理解し覚えるという練習を行った。また、問題文はすべてナチュラルスピードで読み上げられ、すべてのパートにおいて設問間のポーズも数秒と短いため、スピード感覚を体得することの重要性を説明しながら、リスニングの練習を行った。

さらに、各パートにおける頻出単・熟語及び言い回し、よく取り上げられるトピックなどについて、問題の傾向を学生に示した。また、TOEIC 公開テストのリスニング・セクションでは、印刷されている選択肢を予め読むことによって、出題される内容をある程度予想できる場合が多い。そのことが解答を導き出す上で有効な手掛りとなることを示唆した。各時間の後半では、より多くの練習問題を解くことによって学生が問題形式とスピー

ードに慣れるよう配慮した。

5.6 リーディング・セクション

リーディング・セクションは 3 つのパートで構成され、各パートで問題のタイプ及び形式が異なる。3 パート合計 100 問に割り当てられている時間は 75 分だけなので、素早く解答していかなければならない。そのため、各パートへの効率的な時間配分が、高得点を取るキーポイントとなる。先ず、セクション全体の中で各パートにどの程度の時間を割り当てることができるかを大まかに把握させた。そして、各パートの 1 問にかけることのできる時間内に問題を解いていき、各パートの解答を仕上げていく訓練を行った。

さらに、各パートにおける頻出単・熟語及び言い回し、パート 7 の読解問題によく取り上げられるトピックなどについて、問題の傾向を学生に示した。各時間の後半では、より多くの練習問題を解くことによって学生が問題形式と時間配分の仕方に慣れるよう配慮した。

5.7 TOEIC 模擬テスト

以上のような訓練の成果を確認していくため、また、訓練の足りない部位を探し出すため、ある程度の間隔を置いて合計 3 回の TOEIC 模擬テストを実施し、学生のスコアの変化を調べた。第 1 回模擬テストは、ガイダンスを行った翌週の授業時（第 2 回授業時）に、第 2 回模擬テストは、学期のちょうど中頃、第 8 回授業時に、そして第 3 回模擬テストは、最終授業時に実施した。

この 3 回の模擬テストは、90 分という授業時間内で終わらせるという制約があったため、次のように試験内容を調整して実施された。実際の TOEIC 公開テストの試験時間は、リスニング・セクション 45 分（100 問）、リーディング・セクション 75 分（100 問）の合計 120 分（合計 200 問）である。それに対し、本授業で実施した模擬テストにおいては、公開テストの 70 % の制限時間（84 分）しか設定できなかった。この時間設定に則しながら、なお且つ問題の内容が公開テストと同じ形式、同

じパート毎の割合になるようにするため、TOEIC 用問題集にある 1 回分の練習テスト問題から、各パートの最後の 30 % 分の問題を機械的に削除した。

現状診断テストと称する第 1 回 TOEIC 模擬テストを、オリエンテーションを行った翌週の授業時（第 2 回授業時）に実施した。本授業を受講する前の能力の現状を把握するためである。37 名の学生がこのテストを受験した。模擬テストを実施した翌週、各学生にテストのスコアを通知した。このスコアは、前述のような事情により、公開テスト問題数の 70 % 相当のみを用いた場合のものであるので、学生が実際のテストを受験する際の参考にできるように、次のような手続によって換算した数値をも併せて通知した。まず、模擬テストのリスニング及びリーディング・セクションのスコアを 100 % のスコアに換算する。その後、TOEIC 問題集に記載されている自己評価用練習テストスコア換算表に則り、この 100 % スコアを、公開テスト後各受験者に ETS から通知されるスコア（10～990 点）に換算した。

さらに、学期のちょうど中頃、第 8 回目の授業時に、中間達成度確認テストと称する第 2 回模擬テストを実施した。学期の前半における成果を確認し、後半における授業内容を調整する際の検討材料を得るためである。このテストの受験者は 40 名であった。模擬テストを実施した翌週、各学生にテストのスコア及び第 1 回模擬テスト時と同様の方法で算出した TOEIC 公開テスト換算スコアを通知した。また、学習意欲高揚のため、及び各学生が学習を進めていく上での参考となるよう、第 2 回模擬テストにおいて各自が特に良くできていたパート、良くできていなかったパートを併せて通知した。さらに、各学生が 2 回の模擬テストのスコアを比較できるように、第 1 回模擬テストのスコア及び換算スコアを再び併せて通知した。

最終授業時に、最終到達度確認テストと称する第 3 回模擬テストを、当該学期全体の成果を確認するために実施した。31 名がこの模擬テストを受験した。この授業時が、人文学部の集中講義時間

と重なってしまったため、出席した学生数は前 2 回のテスト時より少なかった。

全 3 回の模擬テストの平均スコアは以下の通りである。

第 1 回 合計：90

（リスニング：40 リーディング：50）

第 2 回 合計：98

（リスニング：49 リーディング：49）

第 3 回 合計：106

（リスニング：53 リーディング：53）

*合計点は 140 点満点（リスニング及びリーディングは 70 点満点）

6 成績評価

TOEIC 模擬テストスコアの伸び及び単語テストの点数とを合わせて評価した。

7 授業実施の結果

本授業では、TOEIC 公開テストのスコアを伸ばす訓練を行うという趣旨に照らして授業を行った。各模擬テストによって難易度に違いがあった可能性があるとはいえ、TOEIC 用問題集の練習テストを利用した全 3 回のテストの平均合計スコアが、第 1 回 90 点（64 % の正答率）、第 2 回 98 点（70 %）、第 3 回 106 点（76 %）と、回を増す毎に確実に上昇していることから、本授業は公開テストのスコアを伸ばす効果を有しうるものであったと考えられる。

各セクション毎の模擬テストスコアの変化に着目してみると、リスニング・セクションと比較し、受講前の時点から平均スコアが高かったリーディング・セクションにおいては、第 1 回 50 点（71 %）、第 2 回 49 点（70 %）、そして第 3 回 53 点（76 %）という変化が見られた。

これに対し、リスニング・セクションでは、第 1 回 40 点（57 %）、第 2 回 49 点（70 %）、そして第 3 回 53 点（76 %）と、リーディング・セクションと比較して著しくスコアが上昇している。このこ

とから、受講前の時点で、リーディング問題を解く能力より全体的に低かったリスニング問題を解く能力が、本授業の受講を通して、最終的にはリーディング問題を解く能力と同じレベルにまで向上したと考えられる。

このようにリスニング・セクションのスコアが大幅に上昇した理由として二つ考えられる。つまり、TOEICのリスニング問題慣れとリスニング能力そのものの向上の二つである。受験者は模擬テストの回を重ねる毎に、また授業でリスニング練習を行い、さらに独習をすることにより、問題を解く能力を向上させると共に問題形式やスピードに慣れていき、そのことが模擬テストの平均スコアの大幅な上昇に繋がったと考えられる。TOEICリスニング問題では、問題の読まれるタイミングに慣れ、スピード感覚を体得することによってスコアアップが可能になるからである。

今後の課題としては、次の諸点が挙げられる。

本授業の模擬テストのリーディング・セクションでは、受講前から比較的、平均スコアが高かったこともあり、リスニング・セクションほどのスコア上昇が見られなかった。今後はこのセクションの問題を解く能力をも著しく向上させられるような授業方法を開発していきたい。また、学生に対するアンケートを実施し、授業についての感想や要望を聞き、それらを反映した授業を作り上げていきたい。また、実際のTOEIC公開テストのスコアを（できれば本授業を受講前と受講後の2回）報告してもらい、授業がスコア向上に役立ったかどうかを調査する必要があると考える。さらに、今後は公開テストのスコアを成績に利用できるような評価方法を考えたい。